

O&MはVer.2.0を 目指す時代に

株式会社エナジービジョン

代表取締役 奥山 恭之



新年明けましておめでとうございます。

2020年の太陽光発電の潮流はますます進展し、再生可能エネルギー

脱炭素化を目指す世界

の本格的な活用を前提とした「持続可能な世界」への大転換が、否応なしに進みます。再エネを定着させるべく、よりかご」としてのFIT制度は抜本的な見直しが行われ、これまでの「全量売電」を前提としたビジネスモデルから「自家消費」を前提としたそれへと、コペルニク

スの転回が求められます。環境が激変する中、メーカー、商社、販売店、施工店、発電事業者などそれぞれが自社の立ち位置を再構築するタイミングとなりま

す。O&M事業においても、その大きな流れに沿った自己変革は欠かせません。これまでのO&Mのやり方をゼロから見直したO&M Ver.2.0を目指す時代になったと言えそうです。その大きな要因は、O&Mに掛けられる費用の

捻出がますます難しくなっていくことです。自家消費型太陽光はもちろんですが、全量売電の@14円/時案件などにおいてもO&Mに使える費用はどれだけあるでしょうか？ @21円/時以上の場合よりも大幅に低減することは覚悟しておかなければなりません。そのような案件においても適切な運用管理が必要なことは自明ですが、今までの延長線では単に手を抜いた「安かろう悪かろう」になりかねません。パラダイムを変えるべき時代

に突入した、と言えるでしょう。「O&MはVer.2.0」を目指す上でのキーワードは、太陽光発電所のライフサイクルトータルで考慮・オンサイト点検だけに固執しない・日常管理(遠隔監視活用)の比率を高める・システム活用による効率化・集約化などです。本年もO&M業界の発展に貢献して参りますので、皆さまのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

発電システムに増設される場合、FIT適用と卒

なげる知恵を使うことが大切だと思います。

新エネルギー革命会/(一社)日本PVプランナー協会/(一社)新エネルギー

新工